

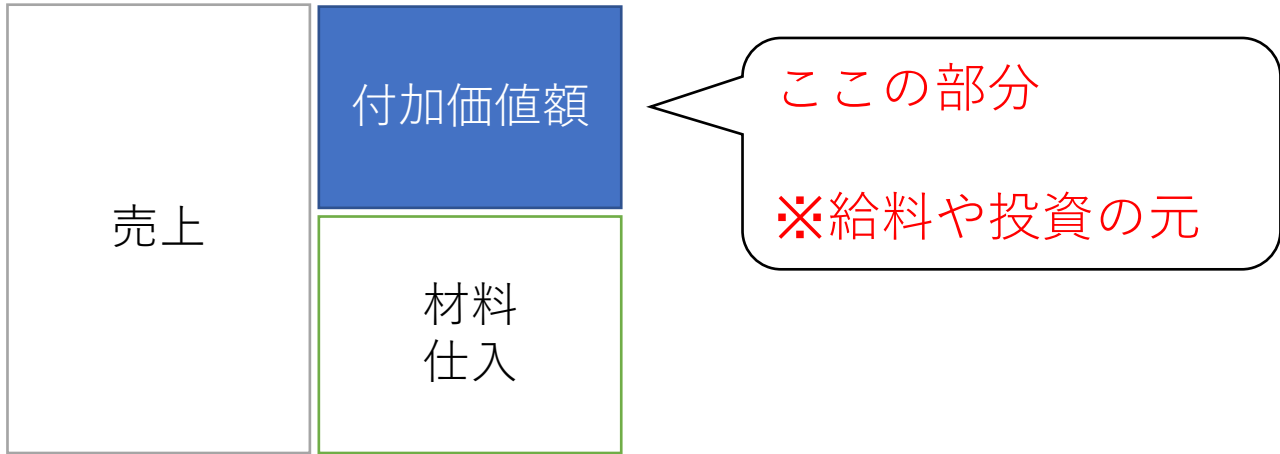
事業説明会資料

特定非営利活動法人ITコーディネータ沖縄

労働生産性とは？

付加価値額とは

企業が生み出した価値（儲けの部分）



従業員一人当たり、または1時間あたりに生み出す成果

$$\text{生産性} = \text{産出したもの} \div \text{投入したもの}$$

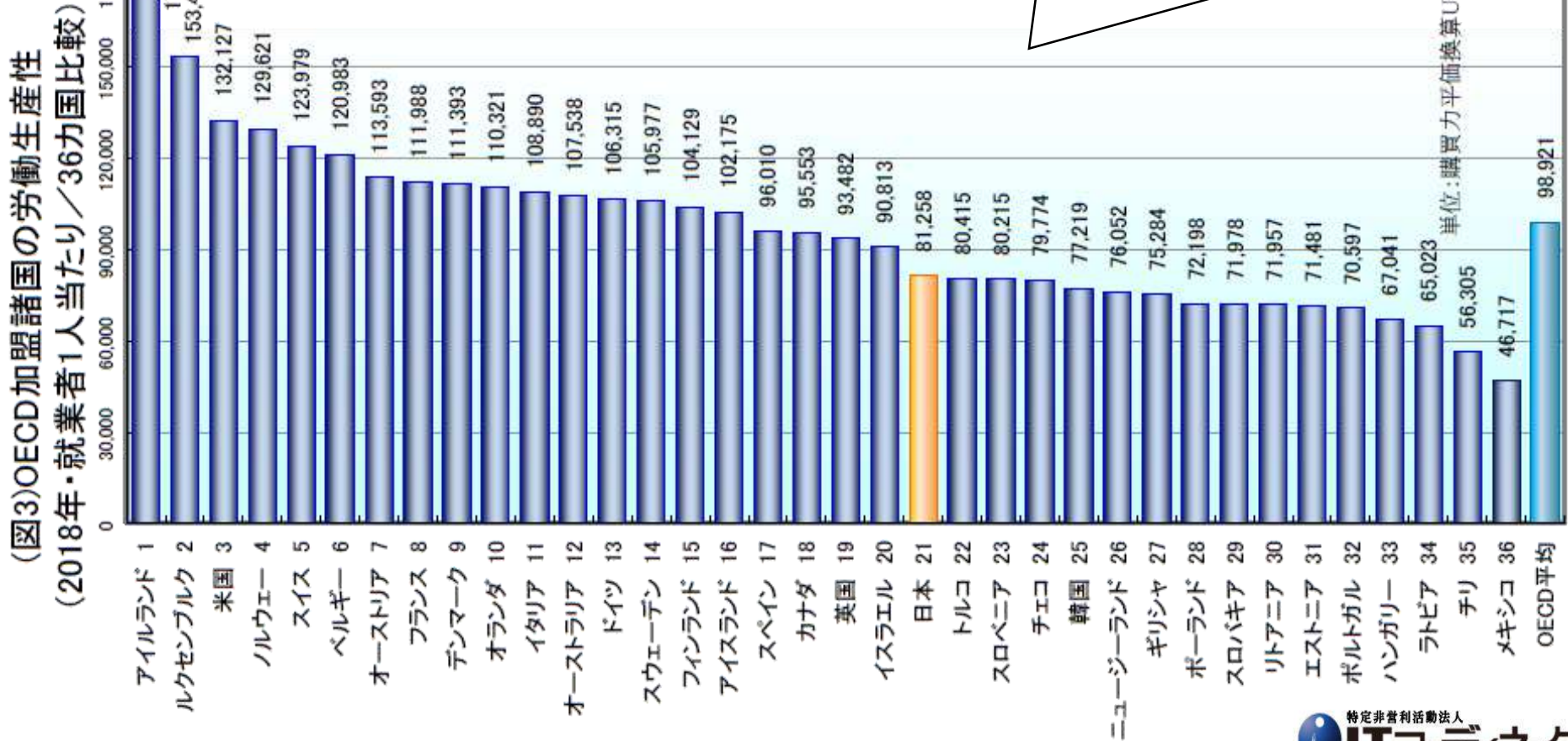
$$\text{労働生産性} = \text{付加価値額} \div \text{労働者数}$$

$$\text{人時生産性} = \text{付加価値額} \div \text{労働時間}$$

労働生産性は実際どうなのか？

世界で見ると

OECD加盟国（36か国中）21位！
平均にも及ばない。1997年から
下降



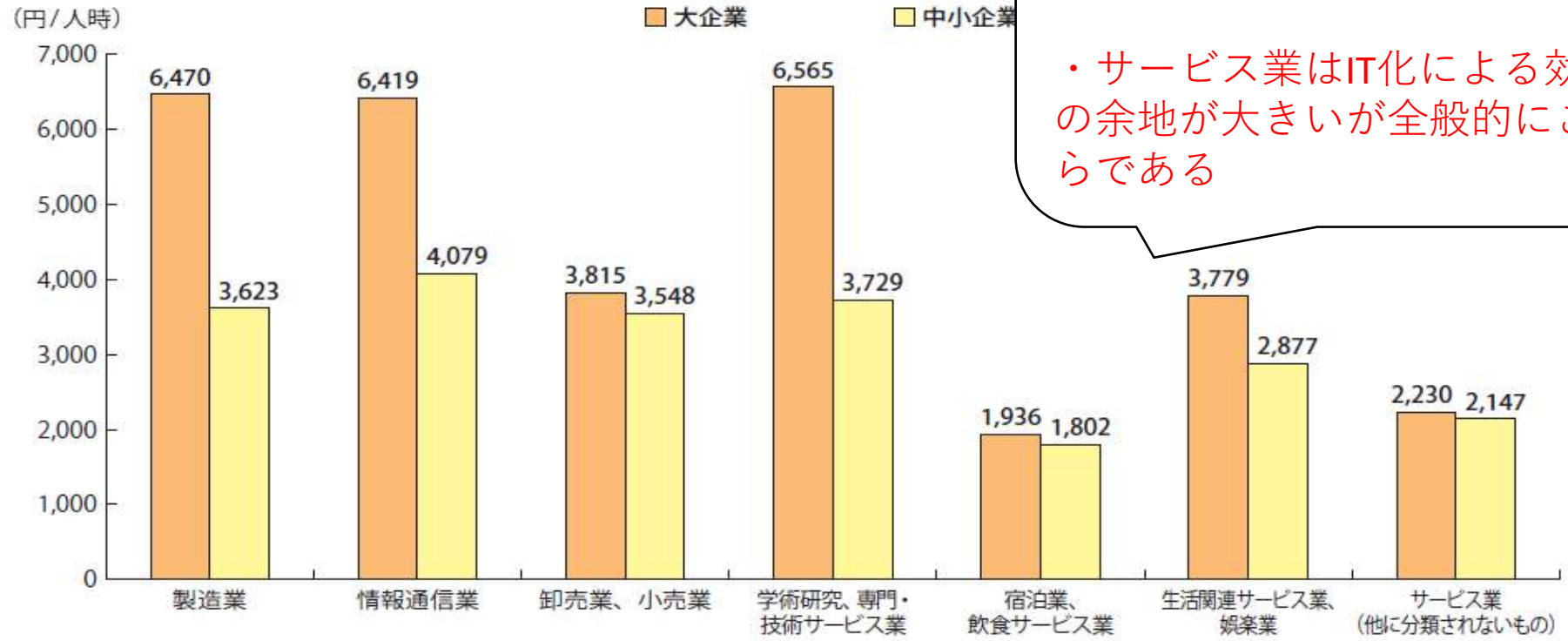
労働生産性は実際どうなのか？

業種別にみると

高い：資本集約型：製造業、情報通信、金融・保険、
低い：労働集約型：飲食・サービス、医療・福祉、教

・製造業は、設備投資による生産性向上しやすく、その投資を行っているか否かで差が歴然である。

・サービス業はIT化による効率化の余地が大きいが全般的にこれからである

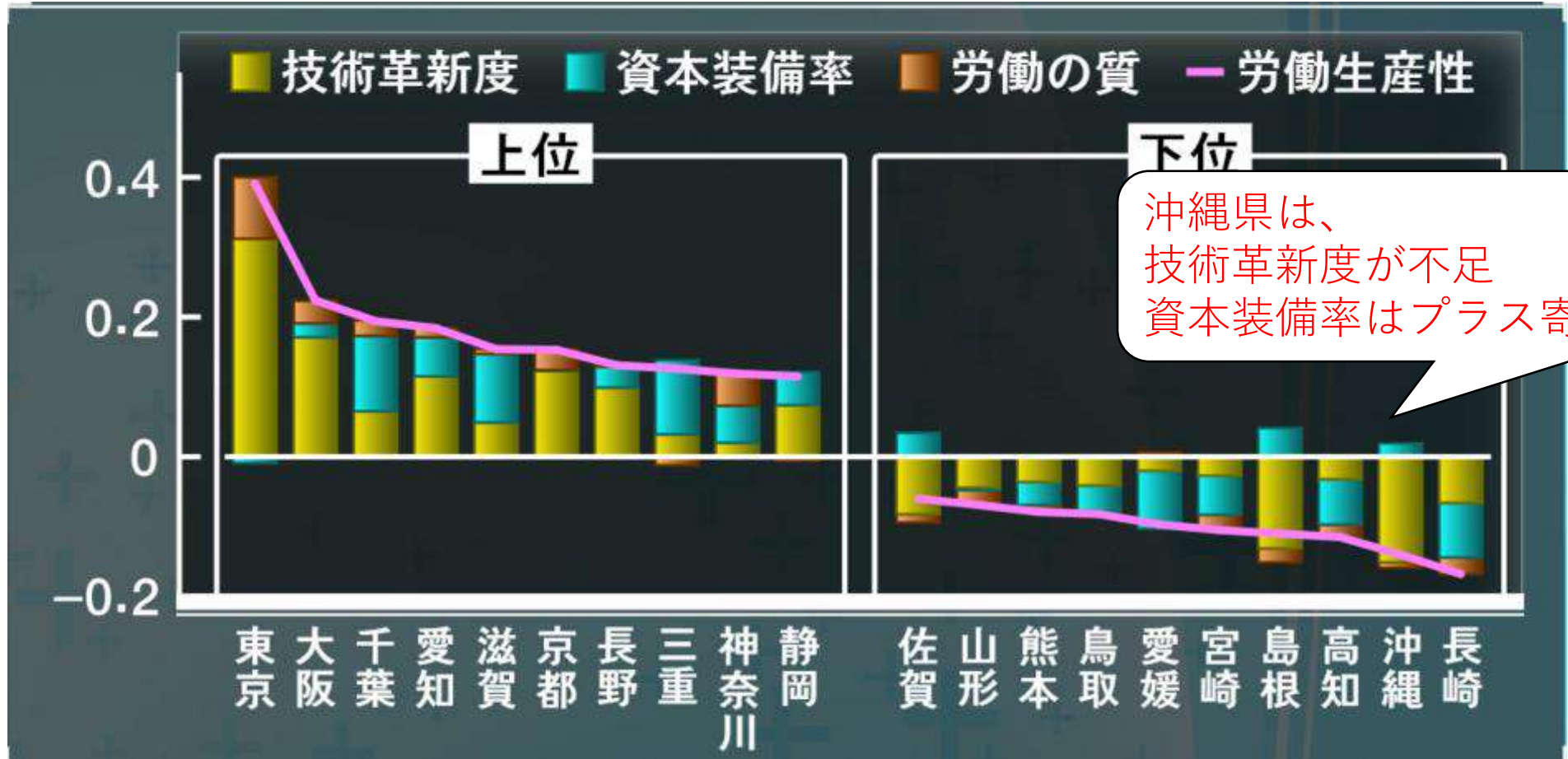


資料：経済産業省「企業活動基本調査」、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」再編加工
(注) 1. 2015年度における労働時間1時間当たりの付加価値額を示している。

2. 付加価値額＝営業利益＋(給与総額＋福利厚生費)＋動産・不動産貸借料＋租税公課＋減価償却費

労働生産性は実際どうなのか？

県別にみると



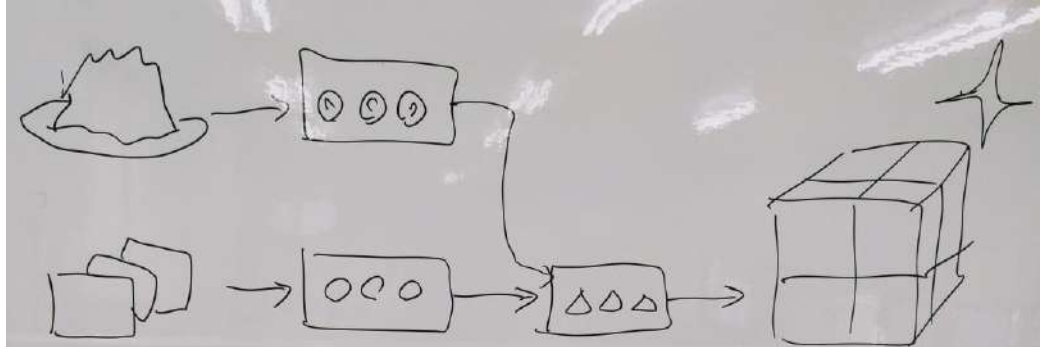
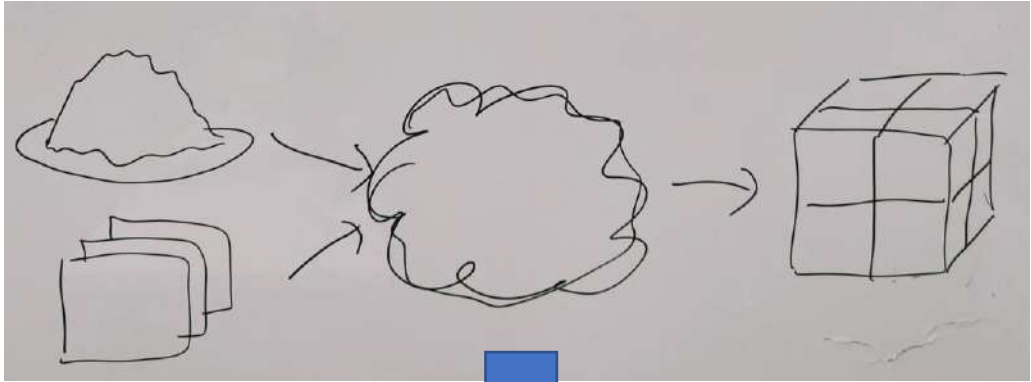
出展：独立行政法人経済産業研究所 ディスカッションペーパー

生産性を向上させるためのポイントは

1. 一人ひとりの業務を見える化

見える化も2つの視点があるんです！

プロセスの見える化



状況の見える化

A hand-drawn diagram on a grey background. At the top, there are stick figures labeled (A) and (B) with arrows indicating interaction. Below this is a table with performance data.

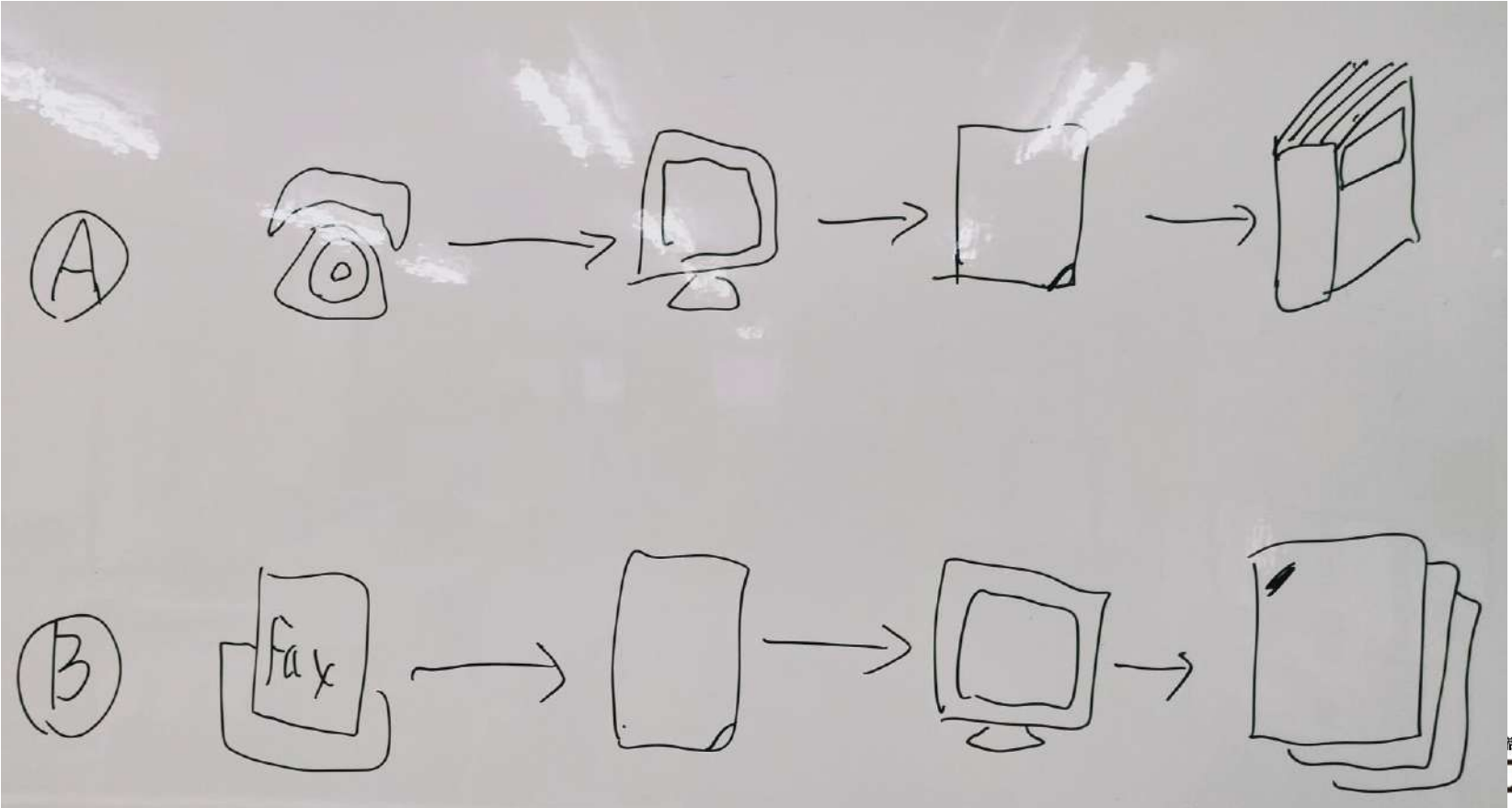
	10:00	13:00
A	30 / 70	60 / 70
B	10 / 100	90 / 100

生産性を向上させるためのポイントは

2. 業務の標準化

ミスの防止
品質水準の確保
属人化防止

標準プロセスを決める

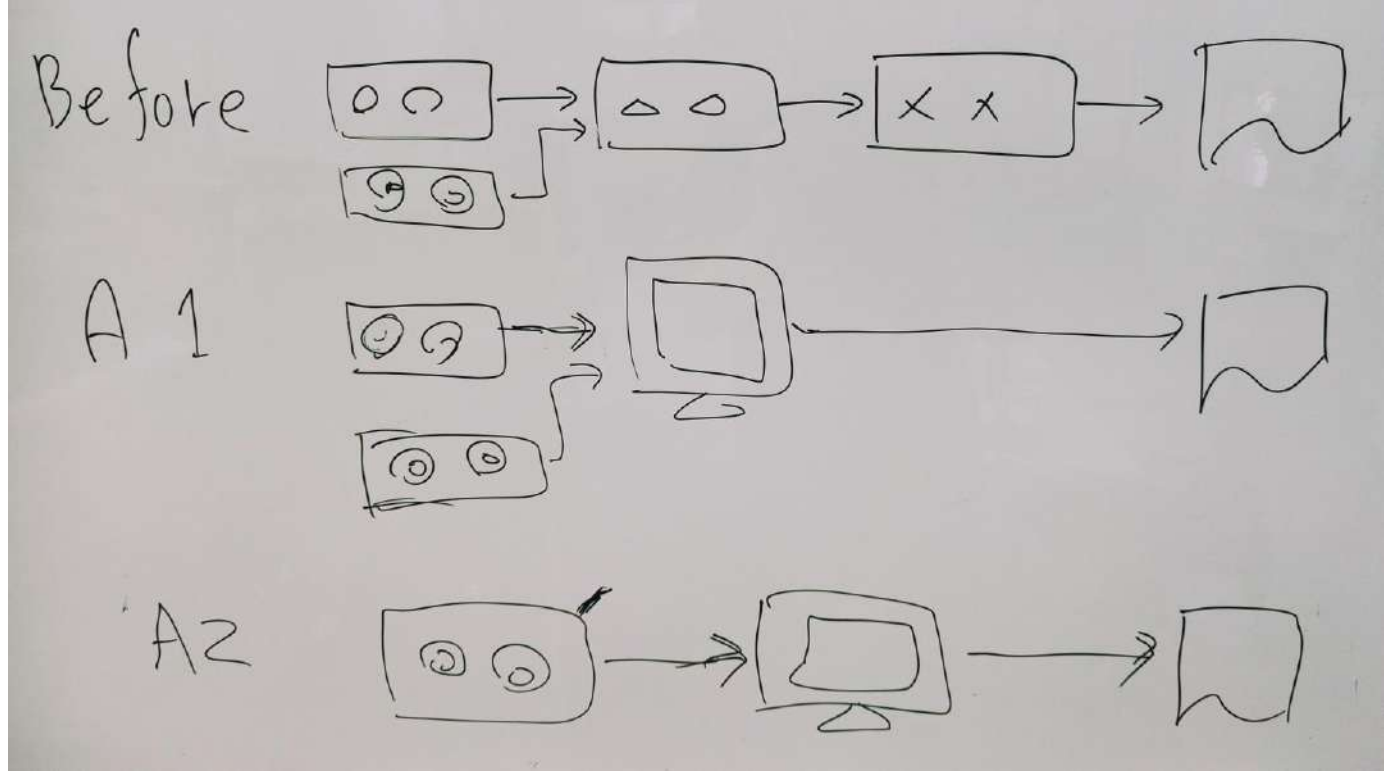


生産性を向上させるためのポイントは

3. 機器やITの活用

プロセスを単純置きかえ
or
プロセスを抜本的に見直し

RPAの活用
自動化された生産設備
リアルからデジタルへ



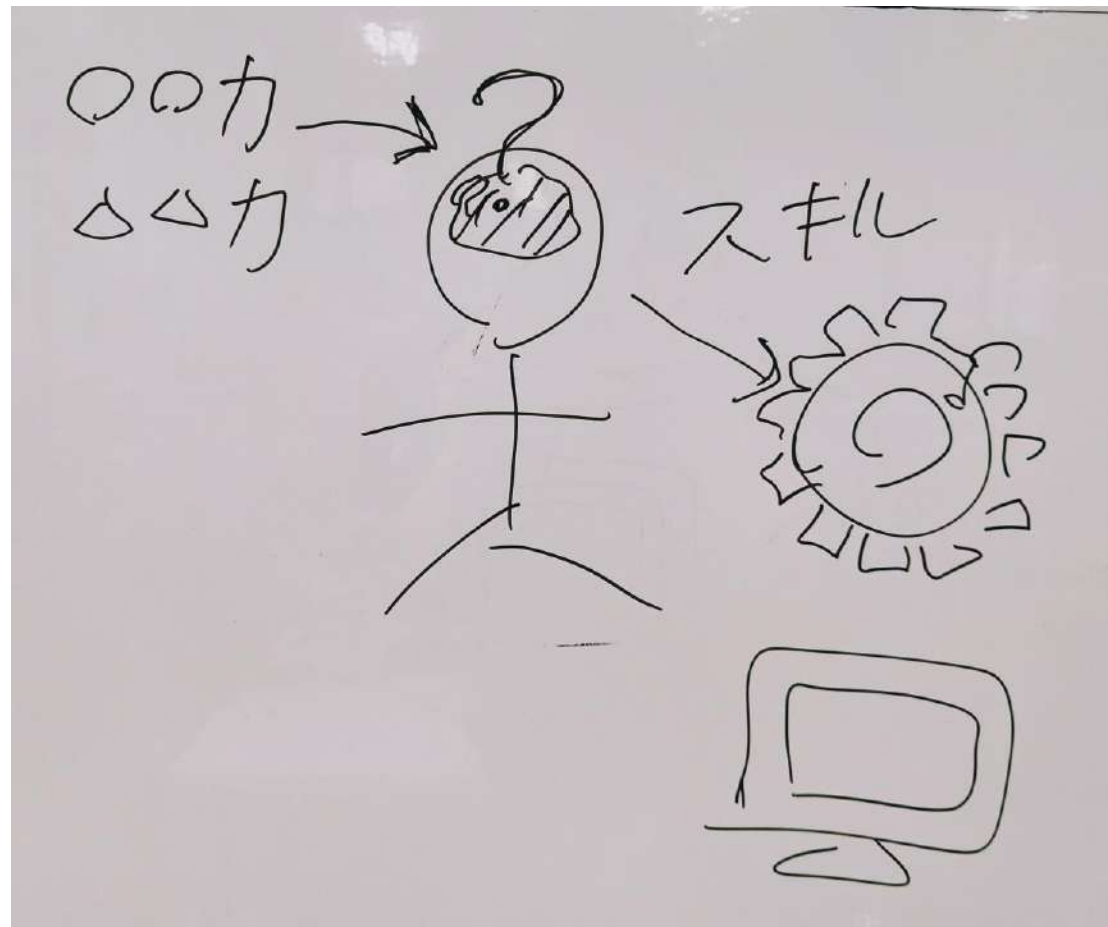
生産性を向上させるためのポイントは

4. 一人ひとりのスキルアップ

人そのものの能力向上のために

機械やITを使いこなすために

スキルアップも2つの視点で



生産性を向上させるためのポイントは

5. ワークスタイルの多様化への対応

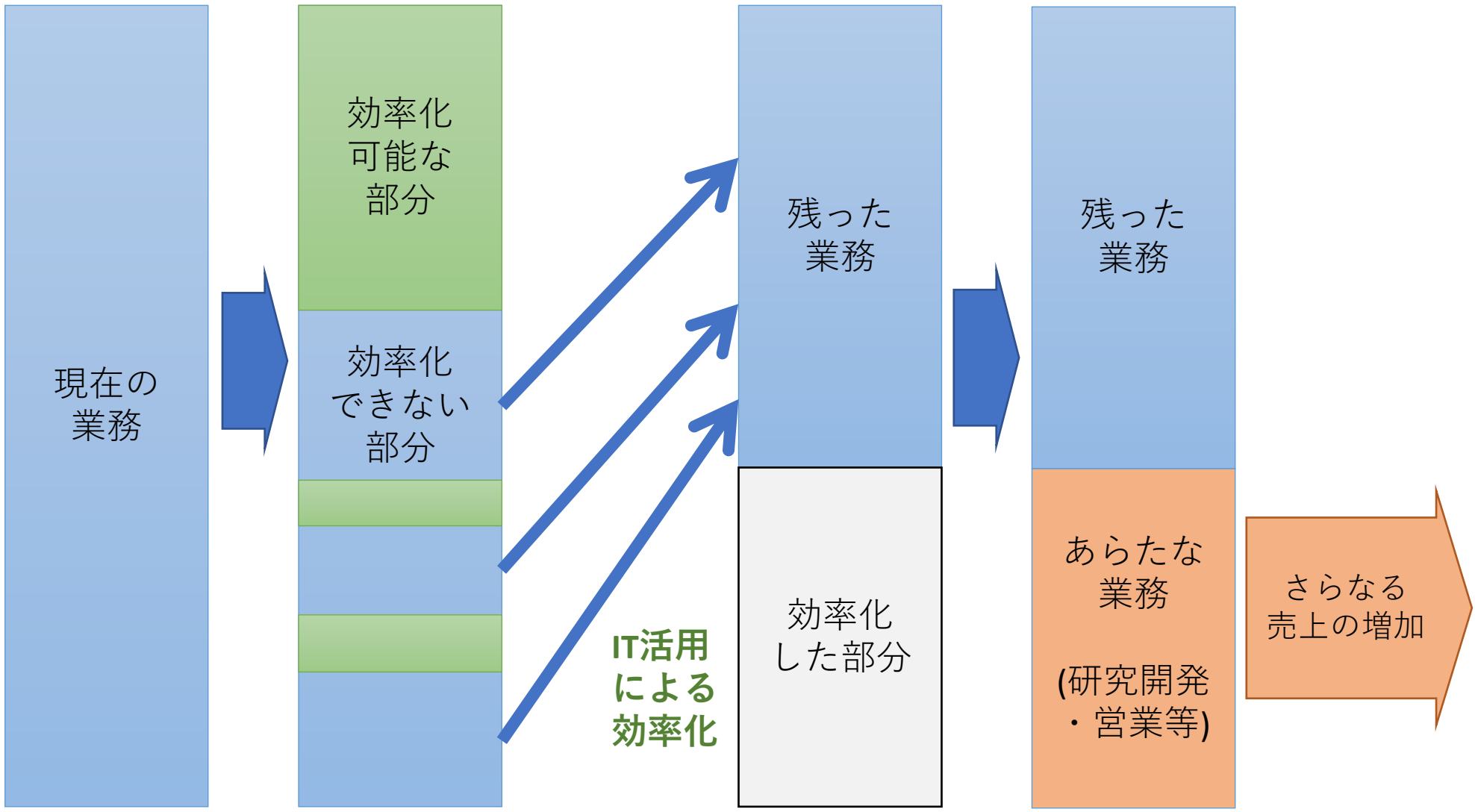
環境に依存（左右されない）しないために

社員満足度向上と優秀な従業員確保のために

今時のベースの考え方

コロナがあっても影響を最小限に

生産性を向上させるためのポイントは



事例 1 生産設備導入事例

事業領域を明確にし、設備投資や研究開発を行って生産性を向上 (株式会社 A 電機製作所)

【どんな会社か】

電気モータの製造と保守を行っている。

【何をしたか】

モーターの芯のコイルを巻くロボットを導入した

【どうなったか】

従来作業員が手作業で1か月間かけて行っていた作業が、作業員1名で数日で終わるようになり、余力ができた。

モーターの再生行程の溶射技術を転用し、空気清浄機の光触媒フィルターの製品開発を行い自社製品として販売。

【今後の展開】

次年度は、モーターの試験設備を導入し、外注していた性能試験まで一貫して行うようにした。

生産性向上のみならず、余力で
自社シーズをベースに新製品開
発し、下請比率を縮小

事例 2 IT活用事例

IT導入による業務効率化に取り組み、生産性を向上 (株式会社B製作所)

【どんな会社か】

住宅用キッチンの製造、販売、メンテナンスを行う、メーカー

【何をしたか】

受注データ（キッチン仕様含む）を製造工程まで一気通貫して流すシステムを導入。

【どうなったか】

1日かかりで手入力していた受注データの入力から図面の設計までを30分で、誤りなく行えるようになった。

【導入にあたっての心がけたこと】

製造現場の生産管理はIT導入を慎重にすすめている。責任者曰く「業務にはIT化すると自らの頭で考えなくなり、柔軟な対応ができなくなる可能性がある。速やかにIT化すべき部分と慎重に行うべき部分があると思う」

ITに使われるのではなく、ITを使う。そのために考える

事例 3 昨年度本事業より

株式会社HRD labo OKINAWA

【導入の背景】

営業担当者が各自独立して動く案件が多い。自律的に動く半面社内全体の動きを把握したり情報を共有しづらいという課題があった

【導入の流れ】

1年前から社内の情報整理を行っていたが、コロナ禍でスピードアップする必要性を感じ、顧客と営業案件の管理から行うこととなった。

【得られた効果】

各営業がどの商談フェーズでどのような営業内容なのか可視化できた。報告作業も簡素化し、戦略検討にかける時間が増えた

有限会社育陶園

【導入の背景】

既存のオリジナルの販売管理システムが、他機能との連携がしづらい等の限界があり、データを打ち込む時間等無駄を感じていた。

【導入の流れ】

当年度が既存システムのリース切れタイミングであったので、この機会にシステム刷新を考えた。

【得られた効果】

既存の不具合の在庫が合わない、他システムとの連携ができない等の課題が解消した。作業時間の短縮等だけでなくロスやミス等の低減等、業務品質面でも効果が大きかった。

生産性とは利益（付加価値）を生み出す力！

企業の安定、成長、そして所得向上の基本

